


 2019年11月28日
大阪大学医学部附属病院
生きているミュージアム「NIFREL」

生きものたちと一緒に手をきれいに！

ニフレルと阪大病院のコラボレーション

12月5日（木）9時～@大阪大学医学部附属病院

❖ 概要

大阪大学医学部附属病院は、昨年の『真実の口』キャンペーンに引き続き、今年も手指衛生のキャンペーンを行います。これは、インフルエンザシーズンの到来を前に、来訪者の皆様に手指衛生(手洗い)を行っていただくことを目的としたものです。今年、三井不動産が運営する大型複合施設 EXPOCITY にある海遊館プロデュースの生きているミュージアム「NIFREL(ニフレル)」とのコラボレーションが実現します。阪大病院の玄関を入ると、ニフレルの生きものたちの足あとがついており、それをたどっていくと手指衛生の為のアルコールジェルのボトルの前まで来るという仕掛けです。足あとだけではどんな動物かが分からないものですが、ボトルの前まで来ると正解が分かります。しかも、実際にニフレルの生きもので採型した足あとの色紙やレリーフが動画ディスプレイとともに設置されていますので、病院に来られた方がよりリアルにその生きものを感じていただけたらと思います。採型する際の動画も取材に来ていただける方にお渡しできるように用意しています。つきましては、ぜひとも当日のご取材をお願い致します。

❖ イベント概要

【日 時】12月5日(木) 9:00 ～

【場 所】大阪大学医学部附属病院1階総合案内前

【対象者】来訪者(患者さん及びそのご家族)

※病院長も来場して手指衛生のPRを行います。

※生きものたちの足あとは来年夏前ごろまで設置予定ですので、当日ご取材いただけない場合でも、下記イベント問い合わせ先にご連絡いただければ個別に取材対応いたします。



❖ インフルエンザ等の持ち込み感染対策として

インフルエンザは例年 1500 万人以上が感染する感染症ですが、去年(2018/19 シーズン)は 1100 万人程度と比較的小さな流行でおさまりました。今年はどうなるでしょうか。来年はオリンピックがあり、夏場でも海外から国内への持ち込み感染が懸念されています。厚生労働省もインフルエンザや MERS(中東呼吸器症候群)や麻疹(はしか)に対する警戒を呼び掛けています(資料)。病院は免疫が極端に低下した患者さんが多数おられ、これらの患者さんはインフルエンザ等の感染症に罹りやすかったり、罹った時に重症化しやすかったりします。この機会に、病院に行く時は、何よりもまず手を消毒するということを社会全体の常識にしたいと考えています。



❖ 手指衛生そのものを“楽しく”する！

病院で手を消毒することの重要性は 19 世紀にすでにウィーンで活躍した産婦人科医ゼンメルワイスによって証明されています。たしかに、患者さんを守るためには、みんなで手をきれいにすることがとても大切です。しかし、あまりそれ

Press Release

を「上から目線」で教育しても効果が上がりません。むしろ反発を招いてしまうこともあります。そこで、**手指衛生も「楽しく」できる工夫をしました。** 昨年は、仕掛学の松村真宏教授(大阪大学大学院経済学研究科)とのコラボレーションで「真実の口」を実施しましたが、今年は、阪大病院からもほど近いニフレルの生きものたちとのコラボレーションを企画しました。病院の玄関から生きものの足あとがついており、それに沿っていくと手指消毒アルコールにたどり着くと、足あとの主が分かるという仕掛けです。そこには、ニフレルで実際に採取した足あとのスタンプとその生きもの個体の動画が流れています。「あれ？これはなんの足あとだろう？」という小さな疑問とそれに対する答えを用意して、ちょっとした楽しみの中で手指衛生を行ってもらおうという企画です。ちなみに、生きものの種類は今後不定期に変更していく予定です。

❖ 備考

国立大学法人大阪大学(所在:大阪府吹田市、総長:西尾章治郎)と三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:菰田正信)は、三井不動産が運営する大型複合施設 EXPOCITY において、『学ぶ』楽しさを感じられる空間を創出し、地域社会に貢献することを目的とした連携協定を 2018 年 3 月に締結しました。

❖ 本件に関する問い合わせ先

大阪大学医学部附属病院感染制御部医員 森井大一(もりいだいいち)
TEL:06-6879-5093 FAX:06-6879-5094
E-mail: u060642c@ecs.osaka-u.ac.jp 又は morrydaich@hotmail.com

❖ 資料

第 25 回厚生科学審議会感染症部会資料

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/shiryo11.pdf>



2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての感染症対策について

研究の背景

資料11

- 2020 年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京大会」という。)に際しては、様々な国からの訪日客の増加が見込まれ、感染症発生リスクも増加することが懸念される。
- 地域の実情に合わせ、自治体ごとに適切に感染症のリスク評価を実施し、事前にサーベイランス体制の整備等、必要な準備を行う必要がある。
- 厚生労働省科学研究班(平成27-29年度「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」研究代表者:国立感染症研究所 松井珠乃)において、感染症発生動向調査の評価や改善法に関する研究や、東京大会を見据えたリスクアセスメントの手法に関する検討を行った。

研究成果概要

- 東京大会に向け、訪日客からの持ち込み増加の可能性が高い感染症やその対応方法を整理するとともに、各自治体が行うべきリスク評価の手法・手順について取りまとめた。

(例)

		輸入例の増加	感染伝播の懸念	大規模事例の懸念、かつ高い重症度
ワクチン予防可能疾患(VPD)	麻しん	○	○	○
	風しん	○	○	
	インフルエンザ	○	○	
新興・再興感染症	中東呼吸器症候群	○	○	○
	蚊媒介感染症	○		
食品媒介感染症	腸管出血性大腸菌感染症		○	○
	細菌性赤痢	○	○	
その他	結核	○	○	
	梅毒	○	○	

- 現在、各自治体からリスク評価結果の報告を受けているところであり、今後、各自治体のリスク評価の改善に向けた検討を行う。